

## 《令和元年度 留学生能楽鑑賞教室を実施しました》

(1)日 時:令和元年8月25日(日)

12:00 ~ 16:30

(2)内 容:①能楽師による能楽体験

②能楽についての解説

②狂言「柿山伏」および能「安達原」の鑑賞

※日本語、英語、中国語、韓国語の字幕付き

(3)会 場: 国立能楽堂(渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1)

(4)参加費用:参加料金は本協会にて負担しました。

(5)参加人数:27名

※中国:15名、ベトナム2名、韓国:1名、台湾:1名、チェコ:1名、ルーマニア:1名、シンガポール:1名、カナダ:1名、ポーランド:1名、ガーナ:1名、モロッコ:1名、ナイジェリア:1名

(6)実施状況:

本事業は、国立能楽堂が実施する「国立能楽堂ショーケース」を鑑賞するもので協会が参加学生の募集を行っています。「国立能楽堂ショーケース」とは、初めて鑑賞する人でも気軽に能楽を楽しめるよう、解説・狂言・能をコンパクトにまとめた公演です。

鑑賞の前に、能楽師の宮内美樹氏による能楽体験が行われました。「うたい」の体験では謡(うた)の発声の仕方を、「かまえ」では演技の基本となる姿勢を、「型」では泣く演技について教わり、実際の能舞台の上で、教わった能の動きを実践しました。説明は全て英語で行われ、能楽の歴史や所作の意味などについてのお話も伺うことができました。

1時間程度の能楽体験の後、狂言「柿山伏」と能「安達原」を鑑賞しました。上演の前には、各演目の内容についての解説がありました。「柿山伏」は、劇中の随所にユーモアが盛り込まれており、空腹を満たすため柿を勝手に食べ始める山伏を見つけた柿の木を持ち主が、あわてて隠れる山伏をからかおうと「あれは犬か」「いや猿か」と問いかけ、山伏がそれに応えて鳴き声を真似る場面では、会場から笑いが起こり、留学生も楽しんでいる様子でした。

狂言の上演終了後、休憩をはさんで、「安達原」が上演されました。劇中の見所である、鬼と化した女が山伏に襲い掛かろうとする場面では、迫力のある音楽と謡に合わせて山伏が数珠を使い、祈り伏せる様子が演じられ、緊迫した状況が舞台の上から伝わってきました。

鑑賞教室終了後、学生から「能の見方だけでなくその背景や歴史的なことも聞けてよかった」「舞台上で体験する機会があってありがたかった」などの感想が寄せられました。



泣く動作を表す「型」の体験



集合写真